

# 『いばらきカミキリみっけ隊』活動報告

茨城県では、2025年度も外来カミキリを見つけ、駆除してもらう活動として『いばらきカミキリみっけ隊』を募集しました。対象は、県内在住の小学生以上の皆様です。

駆除活動に参加いただいた方には、奨励金にあたるプリペイドカードやステンレスボトル・缶バッジなどの限定グッズを贈呈しました。また、希望のあった小学校ではセンター職員が県政出前講座を行い、外来生物やカミキリの話をしました。

6月から9月までの活動の結果、数多くの外来カミキリを駆除できました。ご協力ありがとうございました。

2025年度実績（19市町+生物多様性センター）

捕殺数（外来種のみ）	持ち込み人数（延べ人数）
7,797匹	328人



ステンレスボトルと缶バッジ

## 出前講座の様子



つくばみらい市立伊奈小学校



五霞町立五霞小学校

## 情報提供をお願いします

「外来カミキリを見つけた」「フラスを発見した」



### 連絡先

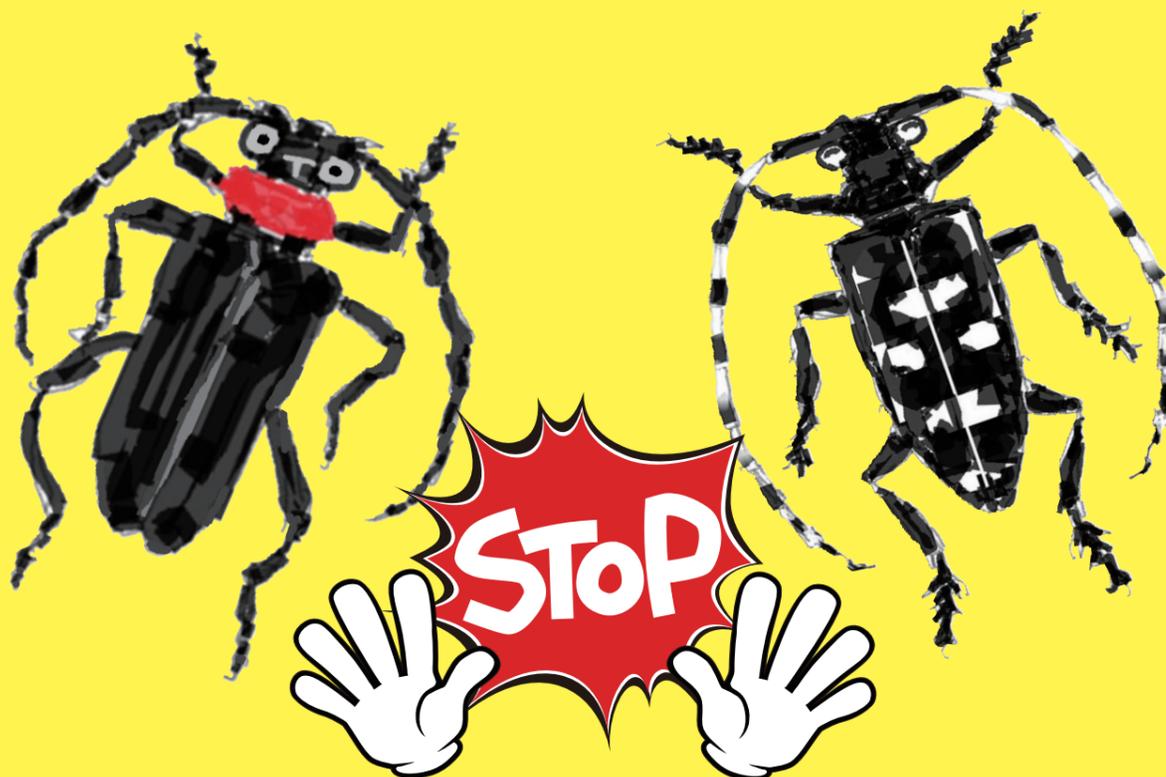
- 茨城県生物多様性センター  
電話：029-301-2940  
メール：tayousei@pref.ibaraki.lg.jp
- 最寄りの市町村

⚠️「生きたままの運搬」や「飼育」は禁止されています。ご注意ください。

リーフレット作製 2026年2月

# 樹木を食い荒らし枯らす特定外来生物

## クビアカツヤカミキリ ツヤハダゴマダラカミキリ



## 特定外来生物とは

海外から持ち込まれ、生態系や人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物として、外来生物法に基づき国が指定するものです。飼育・栽培・運搬・保管・輸入・販売・野外に放つなどの行為が原則禁止されています。

被害拡大防止のため駆除にご協力下さい

茨城県生物多様性センター

# クビアカツヤカミキリ

形態	体長 2.5～4.0 cm 体色は光沢のある黒色、前胸部は赤色 他に似た大きさ体色のカミキリムシは国内にはいません。
発生時期	成虫は5月中旬～8月に羽化。幼虫は2～3年木の中で生活
被害樹種	サクラ、モモ、ウメなど



茨城県では、2019年に古河市で発見され、県西地域を中心に被害が広がっています。特にサクラの木への被害が多く確認されています。

## クビアカツヤカミキリを見つけるには

**成虫**は5月中旬～8月頃に、サクラ、モモなどの樹木を見回ると発見できます。

**幼虫の存在に気付く手がかりはフラスです。**「フラス」とは、幼虫が樹木に開けた穴から出したフンと木くずの混ざった排出物で、フラスがサクラやモモの根元にあったら要注意です。



被害木のネット巻  
(成虫の拡散防止対策)



クビアカツヤカミキリのフラス  
かりんとうのような形で、中に  
カンナで削ったような薄い切片が  
見られます。

## 駆除について

成虫は見ついたら逃がさないように素早く捕まえて、その場で駆除してください。  
幼虫はフラスの排出孔への殺虫剤注入や樹幹への薬剤注入、伐採等で駆除します。  
継続して見回りをを行い丁寧に駆除することが大事です。

# ツヤハダゴマダラカミキリ

形態	体長 2.0～3.5 cm 体色は黒色で翅に約20個の白斑があります。 在来種のゴマダラカミキリとよく似ているため注意が必要です。
発生時期	成虫は5月～10月に羽化。幼虫は1～2年木の中で生活
被害樹種	トチノキ属、アキニレ、リンゴ属、サクラ属、ナシ属、バラ属、 ネムノキ、ハリエンジュ、トネリコ、ヤナギ属、カツラ属など <b>多種</b> 。



茨城県では、2021年につくば市で初確認。アキニレ、トチノキ属、カツラなどの**街路樹**や**公園木**の他、**河川敷**のヤナギ類などに被害が発生しています。

## ツヤハダゴマダラカミキリを見つけるには

5月～10月頃に、被害木を見回り**成虫**を見つけます。被害木は木の上部に脱出孔または産卵痕（直径10～15mm）があります。



脱出孔



産卵痕

## 在来種ゴマダラカミキリとの見分けるポイント

前胸背部の白斑 なし	あり
翅付け根部の白斑 なし	あり
顆粒状突起 つるつる	ぶつぶつ
翅付け根部中央の白毛 なし	あり

ツヤハダゴマダラカミキリ

ゴマダラカミキリ（在来種）

## 駆除について

成虫はクビアカツヤカミキリと同じで、見つけたらその場で駆除してください。  
幼虫は、薬剤注入、伐採等で駆除します。上部から被害を受けることが多いので、落枝等による被害を防ぐためにも早めの処理が必要です。